



大久野の羽生地区にある伊奈沢天神社は、学問の神様として有名な菅原道真公を祀った神社です。本殿に祀られている木造菅公坐像は江戸時代前期の作と推測されます。また、新編武蔵風土記稿や武蔵名勝図会などには菅公にゆかりの伝承が記されていて、その自画像が祀られているといわれています。



毎年、年初めの1月下旬に行われる天神様を祝う縁日では、湯花神事（ゆのはなしんじ）が執り行われ、縁起物の豆太鼓が売り出されます。湯花神事は養蚕が盛んだった頃から伝わる神事で、おかいこさまと呼ばれた蚕のために始められたといわれています。豆太鼓は、地元青年会（青羽会）の人達が一つずつ手作りしたもので、太鼓にはその年の干支が描かれていて、頭の部分には竹で編んだ風車が付いています。また、縁日には近隣の受験生が多数お参りにやってきます。

伊奈沢天神社

伊奈沢天神社がある約1 kmほどの通りは**羽生通り**と呼ばれ親しまれています。羽生通りは、羽生バス停付近の羽生橋から平井川南岸に渡り、大久野中学バス停付近の秋川街道に出るまでの通りです。通りには古いお屋敷が立ち並び、全国的にも珍しい3階建ての蔵のあるお屋敷や、日の出町の卒塔婆産業発祥の1つとされるお屋敷があります。里山の麓には田んぼや畑も残っていて、人と自然が折り合いをつけて暮らしていた頃の温かい面影が感じられます。